



～地域包括ケア病棟から地域をデザインする～

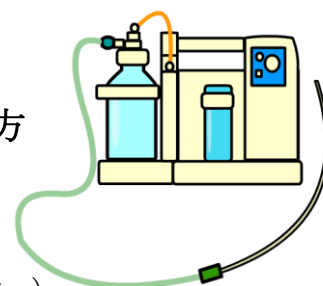
発行元：地域包括ケア病棟・リハビリ科・地域医療連携室

地域包括ケア病棟とは

地域包括ケア病棟は、平成26年の診療報酬改正で新設され、当院では同年8月より運用を開始しています。地域包括ケア病棟の役割のひとつには、地域からの受け入れが挙げられており、在宅から受け入れすることで疾病の重症化を避け、住み慣れた地域で住み続けることが可能となります。

当院の地域包括ケア病棟で受け入れ可能な方について (地域からの受け入れ)

1. 痰の吸引、点滴などの医療的処置が必要なため、介護施設でのショートステイの利用が困難な方（メディカルレスパイト）
2. 短期集中リハビリテーションが必要な方（入院期間は2～3週間）
3. 摂食嚥下機能評価を希望される方
4. 痰の吸引方法など、ご家族への指導が必要な方
5. CKD（慢性腎臓病）教育入院
(8月から地域包括ケア病棟での受け入れが始まりました。)



研修会の予定

1月19日（木）午後5時30分～

第6回 地域との連携を学ぶ会

～訪問薬剤師との連携を学ぶ～

講師：藤本和子様（相楽薬剤師会理事）

会場：当院9階会議室

費用：無料

※お問い合わせは地域医療連携室まで

問い合わせ先

地域医療連携室（担当：中嶋・南出）

TEL：0774-72-0235

E-mail: ti0001@yamashiro-hp.jp

※バックナンバーは、[当院ホームページ](#)から閲覧できます。「[トップページ](#)のご利用者への案内」→「[入院案内](#)」→「[地域包括ケア病棟の御案内](#)」

地域包括ケア病棟で受け入れした事例（第8回）

患者：90歳代

利用目的：メディカルレスパイト

褥創の処置が必要なことから介護施設のショートステイ利用が困難なため、定期的に当院地域包括ケア病棟を利用されています。（主任ソーシャルワーカー 中嶋 庸介）

～褥創処置について～

平成27年8月から年数回、地域包括ケア病棟を利用されています。状態はベッド上でほぼ寝たきりで、食事は全介助にて摂取されています。幸い、肺炎を起こすことなく経過しておられますが、褥創などの処置を必要とします。

右腸骨稜に浅い潰瘍形成がみられます。処置としては石鹸で洗浄し、創傷被覆材を貼付します。浸出液が少なく創が浅い時は、エスアイエドを使用しますが、悪化して浸出液が増えると、創傷被覆材をハイドロサイトジェントルに変更しています。また、右大転子の骨折治療のために使用されている髄内釘に到達する瘻孔形成があり、膿の排出を伴っています。そのため、生理食塩水による洗浄を行う必要があります。

（副院長 岩本 一秀）

※ 当院には、皮膚排泄ケア認定看護師がおり、多職種で褥創対策に取り組んでいます。



～ケアマネジャーの立場から～

ご家族が不在の時に特養のショートステイを利用されていましたが、褥瘡が重度化してショートステイの利用が困難になり、定期的に地域包括ケア病棟を利用させて頂いています。入院中に娘さんが手技を習い、自宅では毎日褥瘡の処置をされていますが、岩本先生と褥瘡チームに定期的にその状態を診てもらえる上、もし体調が悪くなった場合も病院だと安心できることが良いとおっしゃっています。在宅のケアマネにとっても、この地域にメディカルレスパイトを受け入れてもらえる病院があることを大変ありがたく思います。（写真は木津川市社会福祉協議会のマスコットキャラクターのハッピーコスモスちゃんです）（ケアセンターハッピーコスモス 早川 幸代）



地域医療連携室から

「開かれた病院」を目指して

先々月、“地域との連携を学ぶ会”についてお伝えさせて頂きました。毎回、アンケートで感想をお聞きし、次回の参考にしています。また、当院へ期待することや要望などについてもお尋ねしています。いろいろなご意見を頂戴し、私自身も学ぶことが多く、とても参考になります。学ぶ会終了後、アンケート結果に目を通すのをひそかな楽しみにしています。また、継続してやっけていて良かったと思える瞬間でもあります。

今後も引き続き、地域の皆様のご意見やご要望を参考にしながら、研修会を継続していきたいと思っていますので、ご参加頂き、アンケートにご意見やご要望の記載をお願いします。また、地域包括ケア病棟に関するご要望なども頂戴できましたらありがたく思いますので、よろしくお願ひします。（地域医療連携室 係長 南出 弦）